本体と替えの品番・対応の根拠

一組につき1・2ページを使います。候補を替えたら新しいシートに記入します。空欄は確認済みではありません。分からない欄は「未確認」と残します。

本体のメーカー・商品名

本体の品番（末尾の英字まで） / 読んだ場所

候補のメーカー・商品名

候補の品番 / 読んだ場所

対応資料名・URL

資料の版・更新日 / 該当ページ・見出し / 確認日

この二つの品番についての記載・適用条件・除外条件

読めない文字・見つからない情報

確認状態：対応確認済み / 非対応確認済み / 未確認

対応・非対応は、この二つの品番への明記を根拠付きで確認した場合に記入します。資料に載っていないことを非対応と断定せず、形や数字の類似だけで対応済みにしません。

問い合わせと回答・購入前の確認

1ページ目と同じ組み合わせを記入します。回答が別の品番について述べている場合は、未確認のまま追加確認します。

本体品番 / 候補品番

問い合わせ先（メーカー・販売者名） / 送った日

質問に書いた本体品番 / 候補品番

回答日 / 回答が対象にしている本体品番・候補品番

回答の要点と条件

元の回答を保存した場所 / 品番の一致・不一致

追加で確認すること

必要な仕様 / 購入したい個数

候補の仕様・一箱の入り数

商品代・送料・手数料 / 今回の支払合計

注文画面で確かめること

対応が分かっても、必要な仕様・入り数・支払合計は別に確認します。問い合わせ送信や注文を行う機能はありません。

書き方の例：すべて架空です

以下の品番、資料、回答、日付はすべて説明用の架空例です。
実在商品の適合情報や実際に受け取った回答ではありません。

例1 数字は同じでも、末尾が違う

本体：TM-20S
候補：RF-20
確認日：2026年11月11日（架空）
資料：架空のRF-20対応一覧・1ページ
表示内容：「対応本体：TM-20」
状態：未確認
理由：TM-20Sの記載を確認できていない。非対応とも断定しない。
次の確認：一覧の続きや注記を確認し、不明ならTM-20SとRF-20を明記して問い合わせる。

例2 両方の品番が一致した回答

本体：TM-20S
候補：RF-20
架空の回答：「本体TM-20Sには、詰め替えRF-20が対応します」
回答日：2026年11月12日（架空）
回答の対象：TM-20S / RF-20。一致。
状態：この例の設定では対応確認済み
次の確認：必要な幅・長さ、入り数、支払合計はまだ未確認。対応確認だけで購入を確定しない。

例3 質問した品番と回答の品番が違う

質問：TM-20S / RF-20
架空の回答：「TM-20にはRF-20が使えます」
状態：TM-20Sへの対応は未確認のまま
次の確認：「質問した本体はTM-20Sです。末尾Sのある本体にも対応するか確認をお願いします」と補足する。

例4 非対応が明記された場合

本体：TM-20S
候補：RF-21
資料：架空のRF-21対応一覧・注意事項
表示内容：「TM-20Sには対応しません」
状態：この例の設定では非対応確認済み
次の確認：この候補を購入候補から外す。別の候補に替えるときは、確認済みの印を引き継がず新しいシートに記入する。

例5 本体の末尾が読めない

本体：TM-20の後の一文字が不鮮明
候補：RF-20
状態：本体品番未確認
次の確認：本体表示や手元の説明書を見直す。読めない文字をSと推測しない。

問い合わせ文と使い方

以下を自分の情報に置き換えてから使います。送信機能はありません。

住所、注文番号などは、相手から必要性の説明がある場合に別途判断してください。

本体 [本体の品番] を使っています。

詰め替え [候補の品番] が、この本体に対応するか確認したくご連絡しました。

[資料名・該当箇所] では [実際に確認できた表示] となっていますが、 [まだ不明な点] を確認できませんでした。

本体 [本体の品番] と詰め替え [候補の品番] の組み合わせについて、対応の可否と条件があれば教えてください。

使い方

1. 1・2ページを印刷し、本体と候補を一組記入する。
2. 対応の根拠を記録する。分からない欄は「未確認」と残す。
3. 必要な場合だけ、上の文の [ ] を埋めてメーカーや販売者へ問い合わせる。
4. 回答が同じ二つの品番を対象にしているか照合してから、確認状態を更新する。
5. 3ページの架空例は書き方の参考に使い、実際の根拠として転記しない。

本資料は文具の詰め替え選びを整理する印刷用シートです。

適合の自動判定、問い合わせ送信、注文は行いません。